たまねぎレポート【第420号】

令和 4年10月26日

阪南青果株式会社

社　内　報

９月の天候は、気温は北・東・西日本で高くなった。降水量は沖縄・奄美でかなり多くなった。日照時間は北日本の日本海側でかなり多くなった。特に、北海道では平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。気象庁の11月～1月の3か月予報では、平均気温は、東・西日本で平年並みまたは低い確率ともに40％。降水量は、東日本の日本海側で平年並みまたは多い確率ともに40％。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並みまたは少ない確率ともに40％。月別予報は次の通り。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。

北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の9月の野菜の販売量は、228，119トン前年比104％（前月比107％）、平均単価はkg￥248前年比94％（前月比102％）。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷増の単価安となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比97％、平均単価はkg￥203前年比104％。東京市場の販売量は前年比104％、平均単価は Kg￥265前年比93％。名古屋市場の販売量は前年比103％、平均単価はkg￥237前年比94％。大阪本場の販売量は前年比108％、平均単価はkg￥250前年比93％。福岡市場の販売量は前年比106％、平均単価はkg￥206前年比97％となっている。

建値市場の9月の玉葱の販売量は25，529トンで前年比99％、（前月比113％）、平均単価はkg￥114前年比110％（前月比84％）。北海物の出荷が本格化したことで、販売量が前月比2桁増とったが、数量的には予想を下回り、平均単価は前月比16％安に留まった。市場別では、札幌市場の販売量は3，830トン前年比87％、平均単価はkg￥101前年比117％。東京市場の販

売量は9，715トン前年比100％、平均単価はkg￥117前年比107％。名古屋市場の販売量は6，385トン前年比108％、平均単価はkg￥107前年比106％。大阪本場の販売量は3，267トン前年比110％、平均単価はkg￥130前年比112％。福岡市場の販売量は2，332トン前年比96％、平均単価はkg￥120前年比112％となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区における卸の代表7社が販売した、9月の主要野菜14品目の販売量の集計と平均単価は次のとおりである。販売量は106，618トン前年比3％減、平年（過去5年平均値）比3％減。平均単価はkg￥151前年比5％安、平年比3％安となっている。販売量が前年比増の品目は、レタスが30％増、ナスとブロッコリーが21％増、トマトが10％増など7品目。販売量が前年比減の品目はニンジンが25％減、ダイコンが19％減、キャベツが11％減、タマネギが5％減など7品目。前年比高となった品目はニンジンがkg￥170で77％高、ダイコンがkg￥115で35％高、タマネギが kg￥97で14％高、ネギがkg￥339で13％高など5品目。前年比安の品目は、レタスがkg￥148で前年比36％安、ハクサイがkg￥78で34％安、 ナスがkg￥280で26％安、ジャガイモがkg￥112で25％安、キャベツがkg￥67で18％安など9品目。となっている。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷量は、120，790トン前年比104％（前月比107％）。平均単価はkg￥265前年比93％（前月比102％）で、主要15品目で入荷が前年比増の品目は、レタスが前年比129％、ナスが127％、ハクサイが116％、キュウリが112％、トマトが108％など9品目。入荷が前年比減の品目は、ニンジンが前年比80％、ナマシイタケが83％、サトイモ84％、ダイコンが89％、ニンジンが90％など6品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg￥209で前年比188％、ダイコンがkg￥143で132％、

ネギがkg￥382で119%、ナマシイタケがkg￥1026で112%、タマネギがkg￥117で107%など6品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg￥85で前年比57%、レタスがkg￥202で67%、キャベツがkg￥73で68%、ナスがkg￥296で71%、バレイショがkg￥142で73%など9品目となっている。

東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品　目	入荷量（t）	前年比（%）	前月比（%）	単　価（¥/kg）	前年比（%）	前月比（%）
野菜総数	120,790	104.4	106.9	265	93.1	102.3
たまねぎ	9,715	99.5	106.9	117	107.2	85.4
キャベツ	17,622	105.4	104.3	73	67.8	105.8
はくさい	9,708	116.3	154.7	85	56.7	144.1
だいこん	8,023	89.4	118.1	143	131.6	103.6
にんじん	6,215	79.8	109.6	209	188.1	145.1
ばれいしょ	5,822	93.7	126.8	142	73.3	100.0
レタス	9,209	129.4	93.8	202	66.9	140.3
トマト	6,371	107.9	85.8	470	96.0	117.2
ねぎ	4,304	102.6	128.3	382	119.1	94.8
かぼちゃ	2,797	97.0	140.8	146	91.4	78.1
ながいも	876	106.0	110.3	298	93.7	97.7
れんこん	1,015	112.8	167.5	378	76.8	88.9
にんにく	192	111.1	97.0	880	77.9	99.2

玉葱の概況

需要（市場）の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の９月の玉葱の入荷販売量は9,715トン前年比１００％（前月比107％）。主力は北海物で入荷量は9，360トン前年比100％、占有率は96％で前年と同じ。中國物は158トン前年比56％、占有率2％前年比1ポイントダウン。ニュージランド物は114トン前年比84倍、占有率1％前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg￥117前年比107％（前月比78％）。産地別では、北海物はkg￥116前年比107％、中國物はkg￥136前年比142％、ニュージランド物はkg￥61前年比133％。となっている。

10月に入り、北海物の出荷が最盛期を迎え、安定的で潤沢な入荷続き、相場は軟調に転じた。中旬に向けて卸売各社は、入荷量を抑え安売りを避けたことで、続落を回避したが凡調な荷動きとなった。月後半にはホクレン系統の仕切値が下がる予想で、拡販を計画したが、相場は値下り傾向となったものの、需要は伸び悩み在庫増となった。此処に来て、ホクレンでは出荷量を調整し、前週比70％台に抑制するとの情報を受けて、市場内では投げ売り相場はなくなった。然し、荷動きが好転する気配はなく、市況は現状維持が精々の状況である。

10月1日～20日の玉葱の販売量は6，003トン前年比102％、平均単価はkg￥107前年比92％。主力は北海物で産地別では、北海物の販売量は5,881トン前年比104％、平均単価はkg￥105前年比90％。中國物は101トン前年比51％、平均単価はkg￥139前年比144％。兵庫物は19トン前年比70％、平均単価はkg￥217前年比133％となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の9月の玉葱販売量は6，385トン前年比108％（前月比131％）で前年比、前月比とも大幅増となっている。主力は北海物で、販売量は6，340トン前年比112％、占有率は99％前年比3ポイントアップ。

中國物は30トン前年比41％。総平均単価はkg￥107前年比106％（前月比79％）。産地別の平均単価は、北海物はkg￥107前年比105％。中國物はkg￥132前年比154％。となっている。

10月に入り、北海物主導の販売が強まったが、売れ行き不振で相場はジリ貧状態となった。荷動きが鈍く、裏相場は表面相場の下値を下回り、卸会社の在庫が増加した。中旬の仕切値は値下り傾向にあったが、需給の改善は入荷量を抑制することが先決で、産地に減量を要請した。品質的には、安定化しいずれの銘柄にもクレームがなくなった。月末を控えた昨今の荷動きは、良くも悪くもなく凡調である。ホクレンの出荷調整で大きな在庫もなく助かっている。産地関係者は強気で、現状相場に満足していない様子。市場サイドでは、当面市況の好転する材料はない。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は3、267トン前年比110％（前月比107％）で前年比、前月比とも増となっている。産地別の販売量は、北海物が2，758トン前年比121％、占有率84％で前年比7ポイントアップ。兵庫物は492トン前年比73％、占有率15％で前年比8ポイントダウン。総平均単価はkg￥130前年比112％（前月比86％）。産地別の平均単価は、北海物はkg￥115で前年比107％、品薄高の兵庫物はkg￥214前年比151％。となっている。

10月に入って、入荷の少ない兵庫物は保合。潤沢な入荷の北海物はジリ貧

傾向となった。兵庫物は希少価値化して、産地側は強気で値下げすると、出荷停止になることで、産地の強気に追随している。いずれにしても、兵庫物はkg￥250、北海物はkg￥100では価格差が大き過ぎる。月半ばからはJAの北海物の仕切値は、値下げ容認の動きで、卸の損失は薄まる気配となった。今週になり、兵庫物の引き合いも弱まり、弱保合に転じている。北海物はホクレンの出荷調整で、相場は下値が下げ止まり、下値は減少した。然し、市場の雰囲気は、値上がりに転じるほどの勢いはない。

10月1日～20日の玉葱の販売量は2，372トン前年比108％、平均単価はkg￥112前年比96％。産地別では、北海物は2，112トン前年比115％、平均単価はkg￥98前年比92％。兵庫物は254トン前年比70％、平均単価はkg￥235前年比142％。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱販売量は、2，563トン前年比94％(前月比120％)で、前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は2，332トン、前年比96％、占有率91％前年比2ポイントアップ。中國物は151トン前年比110％、占有率6％前年比1ポイントアップ、愛媛物は30トン前年比84％、占有率1％。総平均単価はkg￥123前年比114％（前月比83％）で前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg￥120前年比112％。中國物はkg￥112前年比135％。愛媛物はkg￥241前年比130％。となっている。

10月に入って、北海物の入荷は潤沢で安定化したが、荷動きは鈍く軟調相場が続いている。月前半のJA物の仕切値は、￥2，000で極力勉売に努めて来たものの，限界に達し在庫が増加した。月半ばには、仕切値は値下りしたものの販売価格も値下がりし、厳しい販売環境は変わらなかった。昨今では、荷

動きは今ひとつだが、出荷調整で入荷が減少しているので、助かっている。在庫は充分にあり、在庫整理に努めているが、投げ売りも侭ならず、現在も厳しい販売環境が続いている。

　10月1日～20日の玉葱販売量は1，555トン前年比94％、平均単価はkg￥102前年比92％、入荷は前年比減、単価は前年比安となっている。

10月25日（火）の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】　販売量214トン　　弱い

北　海 20kgDB2L￥1,800～1,500、L大￥1,800～1,500、　L￥1,800～1,600、
M￥1,800～1,600。

【太田市場】　販売量226トン　　保合

北　海 20kgDB2L￥1,800～1,700、L大￥1,800～1,700、　L￥2,000～1,800、
M￥1,800～

【名古屋北部市場】　販売量201トン　　保合

北　海 20kgDB2L￥1,800～1,600、L大￥1,800～1,700、　L￥2,000～1,800、
M￥2,000～1,800。

【大阪本場】　販売量138トン　　強い

北　海 20kgDB2L￥1,800～1,600、　L大￥1,800～1,600、L￥1,800～1,600、
M￥1,800～

兵　庫10kgDB2L￥2,000～1,900、　L￥2,400～2,200、　M￥2,000～1,800。

【福岡市場】販売量174トン　　強保合

北　海 20kgDB2L￥2,000～1,600、　L大￥2,000～1,600、L￥2,000～1,800、
M￥2,000～1,800。

供給（産地）の動き

１０月に入り、北海産の生産者は、収穫が終了し倉入れを控え、風乾・粗撰に追われている。天候の影響や輸送面の問題もあり、豊作の割に出荷は後ズレ傾向である。市況は軟化傾向だが、平年比高の水準で推移しているものの、。産地関係者の間では昨ジーズンの異常高値の余韻が残り、平年比高の市況でも安値に転落したとの思いが強い。今年の作柄は豊作で、前年比２５％程度の出回り増が予想されている。今年の８月の天候は、月間降水量がかなり多く、日照時間は少なかった。特に岩見沢地方では、気温は平年並みであったが、降水量は平年比１７７％、日照時間は平年比８４％。網走地方では、気温は平年比1℃高、降水量は平年比１７５％、日照時間は平年比９０％と報告されている。多雨と寡照の影響もあり、市場側から、中晩生の北もみじ2000に予想外の腐敗が散見されるし、道東の銘柄品に目切れ（量目不足）のクレームが発生している。との声が出ている。産地側の球肥大良好で品質良好との報告に、市場からは懸念の目が向けられている。撰果・パッキングには要注意である。

府県の冷蔵物は、前年比７４％の入庫に留まり、出荷の前進化で在庫は少なく、異常高相場と少量出荷が続く。

輸入は、中國を始め関係国の国内マーケットが堅調なことや、円安によるコスト高で減少傾向が続くと予想される。

北海道産地

９月まで、昨シーズンの市況を上回る高値で推移した相場は、１０月に入りぢり貧状態が続いている。産地関係者の中には、現在市況に不満感があり、ホクレンでは今週より出荷調整を実施している。産地生産者の多くは、中晩生の「北もみじ2000」のタッビング、粗撰の作業に追われいる。今年の「北もみじ」はい

すれの地域でも、日を経る毎に腐敗の発生率が高く、手数が掛かり作業は後ズレしている。作柄は豊作だったが、ロス率が高く貯蔵期間中のロスが心配されている。

府県産地

佐賀産地では、一部で極早生の定植が見受けられるが、全体的にはマルチ張りの最盛期である。苗立ちは良く、今月末から一斉に移植が始まる。総体的な作付は、前年並みかやや増の予想。いずれの地区も早生系が増反、中晩性が減反となりそうだ。

長崎の極早生は、定植の最盛期で、栽培面積は昨年並みかやや増反の予想である。

兵庫、淡路島では極早生の定植が始まっている。特に、極早生の「スーパーアップ」や早生の「レクスター」が増反、中晩生の「ターザン」が減反の傾向にある。地域ブランドの主品目であり、貯蔵適格品種ターザンの減反で、冷蔵物の確保を心配する向きも多い。産地では人手不足で増反は厳しいと話している。

輸入の動き

９月の輸入量は速報値で，１７，９４２トン前年比９６％。９月から北海産の出回りが本格化したことや、北海産に比べ割高になったものの、予想を上回る入荷となった。国別数量は、主力の中国が１７，８１１トン前年比９８％。ニュージランドが１０８トン前年比６８％。となっている。

此の先輸入は、大幅な円安でコスト高となることから、減少する予想である。

中國、現在の主力産地は甘粛省、山東省産の切り上がりが早く、中國内のマーケットが高騰したことから、収穫・出荷は前進化している。玉葱の栽培面積は昨年並みだが、赤玉の作付が増え、黄玉の作付が減っている。と報告されている。現在の日本向け価格は、２０kg・Ｃ＆Ｆ・剥き玉＄１０．６０。皮付＄９.40。

アメリカ、前号で報告した様に、今年のアメリカの貯蔵性玉葱の作付面積は前年比９８％だが、日本向け主力のワシントンは前年比１０１％。作柄予想は、夏場の高温で収量ダウンが懸念されたが、平年を上回る作型となり品質は良好とのこと。現在の日本向け価格は、５０£・Ｃ＆Ｆ・Ｊサイズ・＄２５.00。Ｍサイズ＄２０.00 と報告されている。

１１月の市況見通し

１０月は玉葱の需要は、例年伸びる月だが、今年は物価高騰の関係なども影響し、伸び悩みとなった。特に小売り関係は振るわず、スーパー等の売れ行きは前年を下回った。１１月には、北海産地では倉入れ（貯蔵）が始まり出回り量がある程度抑制されるが、豊作型の今年は品質の良否の判別が難しく、生産者の粗撰作業が遅れている。１０月のヂり貧相場を改善したいとして、市場側では販売量の抑制を指向し、産地では出荷調整の実施を計画している。唯、此の先の需給は、現状では過剰傾向でマーケットの拡販が求められている。考えられることは、輸入の抑制と輸出の増加である。昨今は、異常な円安で輸出の好機である。ホクレンでは１万トンの輸出を計画しているが、３万トン以上の輸出を期待したいし、現在、中國産の高値で韓国からの打診があり、関係筋で商談が進められている。輸入の減少と輸出の増加が市況好転の鍵となる。

輸出入に変化がなければ、１１月市況は軟調相場が続く可能性が高い。市場の中心相場は、北海物20kg・L大・￥１，７００～１，５００を予想。（**笹野敏和記**）